

様式 I

「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」 事業実施報告書

【学校名】 京都府立 京都八幡 高等学校

【全校児童・生徒数】 563 名

【テーマ】 I Ⅱ III IV V

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

【実践研究タイトル】

ゴールボールを通じた障がい者スポーツの実践と理解

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

高校3年、健康科学コース、男子14名 女子1名

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情 ()	卓越 ()	尊重 ()
	勇気 ()	決断力 ()	
	平等 (○)	鼓舞 ()	

障がい者スポーツを実践することで、ユニバーサルな視点を育み、障がい者スポーツへの理解を深める。

【種類】 ※当てはまるものに○・複数可、()には具体名を記入

- ・各教科 (○)
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・部活動 ()
- ・その他 ()

【実践内容等】

(実践内容)

“ユニバーサルスポーツ”という科目の中で、障がい者スポーツを学習した。その際、パラリンピック種目に注目し、障がい者スポーツ（車イスバスケット・シッティングバレーボール・車イスハンドボール・ブラインドサッカー・ゴールボール）の実践と、調べ学習などに取り組んだ。



(実践上の工夫点、留意点等)

全ての競技の実施前に、競技の歴史やルール、競技場の工夫などを学習し、さらに映像を見せることによってスムーズに授業に入っていくことができた。また、視覚障がい
のスポーツについては、全員がアイマスクを着用するのではなく、一方は目隠しなしで
実施するなど、徐々にその競技に馴染めるような工夫を行った。

(成果)

4月当初の授業において、車イスバスケットを実践した。その中で、実際にチームで
活動されている方を講師としてお招きし、講演を行った。生徒達には、バイク事故によ
って車イス生活になったことや、その後も前向きに明るく生活されている様子に衝撃を
受けていた。

その成果もあり、その後に実施した障がい者スポーツには、どのようにルール・道具な
どが工夫されているのか等、積極的な姿勢で授業に取り組んでいた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

今後もパラリンピック種目を通じて、障がい者スポーツを実践していくつもりである
が、現在の設備、用具の状況では実施可能種目は限られている。また、本校には車イス
バスケット用 車イスが10台あるが、メンテナンスなどが実施できておらず、今後授業
を継続できるか心配される。

「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」
事業実施報告書

【学校名】 京都府立京都八幡高等学校（南）

【全校児童・生徒数】 154 名

【テーマ】 I II III IV V
※当てはまるものに○・複数可

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

【実践研究タイトル】

オリンピック・パラリンピック種目を通して、交流を深めよう。

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

1. 高校3年生 1組28名 2組28名 計56名
2. 人間科学科3年1組 28名
3. 女子ソフトボール部 5名（当日1名欠席）

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値 ※当てはまるものに○・複数可	友情 (<input type="radio"/>) 卓越 () 尊重 (<input type="radio"/>) 勇気 () 決断力 () 平等 () 鼓舞 ()
※目的・ねらいを記入してください 支援学校との交流や体育の授業において、オリンピック・パラリンピック種目を体験することで関心を高めるとともに、サポートのあり方を学ぶ。	

【種類】 ※当てはまるものに○・複数可、()には具体名を記入

- 各教科 (体育) ・道徳 ・外国語活動 総合的な学習の時間 ・特別活動
- 部活動 (ソフトボール部) ・その他 ()

【実践内容等】

(実践内容) ※適宜、様子を示す写真、図表、記録等を含めてください

1. 教科「体育」において、障がい者スポーツの実施

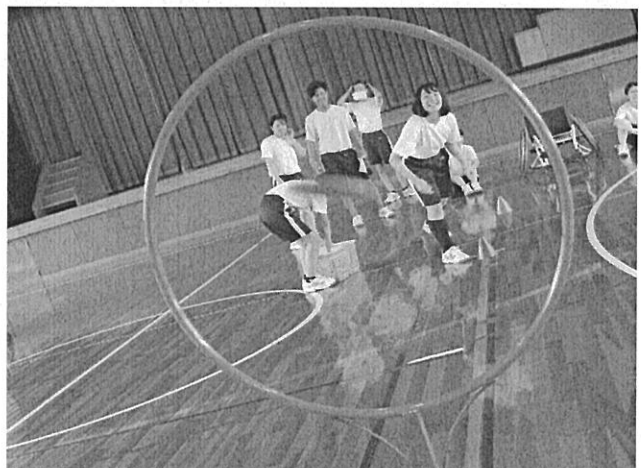
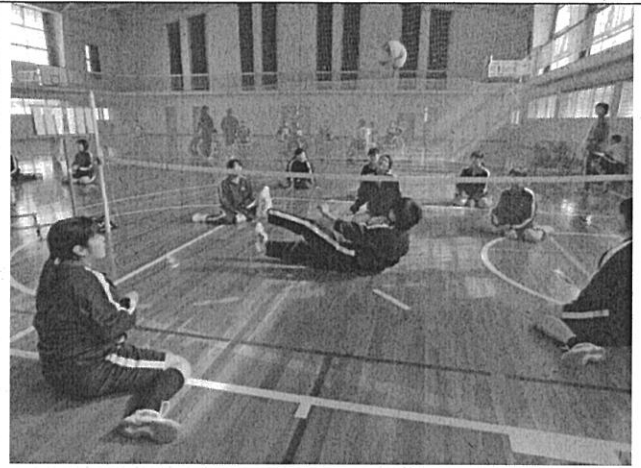
“車いすバスケット” “シットイングバレー” “フライングディスク” “ゴールボール”

(1) 対象 高校3年 1組28名 2組28名 計56名

(2) 日時 9月～11月の体育授業（1単位）において実施

(3) 場所 本校体育館

(4) 内容 ア A：車いすバスケット B：シットイングバレー C：ペタンクの3種類を3グループに分かれて1時間1種目を順番に実施していく。各種目2回ずつ実施。
 イ フライングディスク・ゴールボールは、実習や授業の関係で1クラスしか授業がない時期に2時間で実施



2. 人間科学科3年と八幡支援学校高等部との授業交流

(1) 対象 本校人間科学科3年1組、八幡支援学校高等部就労デザインコース1・2年生

(2) 日時 平成28年12月12日(月)、平成29年1月16日(月) 3・4時間目

(3) 場所 本校体育館

(4) 内容 ア 集合・挨拶・本時の流れの説明

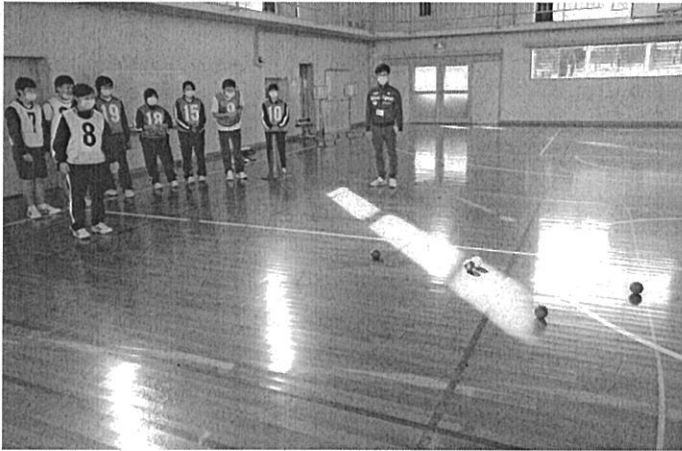
イ 交流ダンス

ウ 12/12ポッチャ 1/16フライングディスク

エ ドッジビー

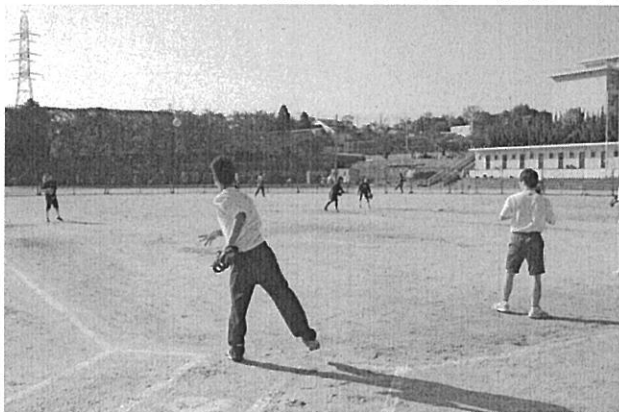
オ 結果発表・感想の発表

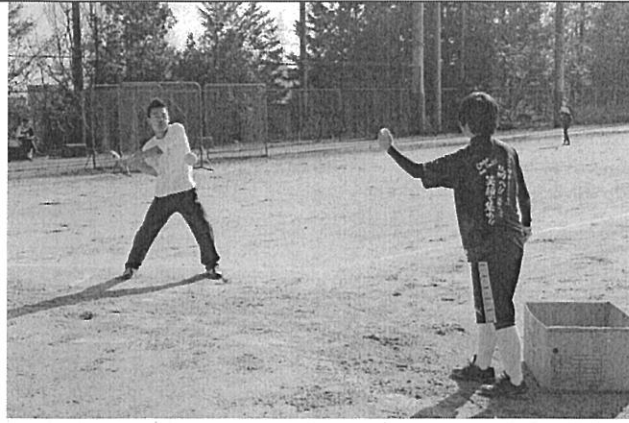
カ まとめ・挨拶・チームごとに写真撮影



3. 本校女子ソフトボール部と八幡支援学校ソフトボール部との部活動交流の実施

- (1) 対象 本校ソフトボール部4名、八幡支援学校ソフトボール部7名
- (2) 日時 平成28年11月12日(土) 8:50~12:15
- (3) 場所 京都府立京都八幡高等学校 北キャンパスグラウンド
- (4) 内容
ア 集合・挨拶・自己紹介
イ 準備体操・ダッシュ
ウ キャッチボール(両チーム混合ペア)
エ ノック練習
オ バッティング練習 横からのフリーバッティング
カ 実践練習 マシン打撃による試合形式
キ 練習試合
ク 集合・まとめ・挨拶・片付け





(実践上の工夫点、留意点等)

1. 特になし。
2. 本校の人間科学科と八幡支援学校は、継続的な交流を実施しているため、この取り組みに際して特に配慮した点はなし。
3. 本校部員に対し、予測される安全面への注意点（個人差、男女差など）を事前に確認し、当日に臨んだ。
練習に使用するボールについて、ゴムボールと少し柔らかいボールのどちらを使用するか事前に支援学校へ確認をしたが、普段から使用しているゴムボールでよいとのことであった。部活動として放課後に練習を重ねている彼らにはそのような配慮は必要なく、普段の合同練習と変わりのない練習ができた。

(成果) ※児童・生徒の意識変容等について記入してください(可能な範囲で、アンケート結果・グラフ・感想文等を記入してください)

1. 本校は将来、対人援助職に就きたい生徒が学んでいる専門学科（人間科学科・介護福祉科）であるため、3年体育2学期の1単位にて障がい者スポーツを実施している。少ない時間数ではあるが、「本校でしか体験できないことを体験できた」「福祉の視点でスポーツを捉えることができた」「障がい者スポーツではあるが、障がいの有無に関わらずみんなでできることがよいと感じた」「難しかったが、単純に楽しかった」「この授業を受け、車いすバスケ（リアル）の漫画を読みました」「ユーチューブで動画を見ました」などの生徒の声が聞かれた。実際に体験したことで、生徒の興味・関心が高まったことが一番の成果である。

2. 本校の人間科学科は、隣接している八幡支援学校と継続的な交流を実施している。前期も体育での授業交流を実施しているため、自然な形で交流を進めることができた。ただし今回は、前回には実施しなかったパラリンピック種目である“ボッチャ”と“フライングディスク”を一緒に行った。フライングディスクについては、本校の生徒は体育の授業で1度実施していたが、ディスクを投げる技術が乏しく、支援学校の生徒からアドバイスをもらいながら共に作戦を考え、実施をしている場面が多くみられた。ボッチャについては実施したことがなく、初めて投げる生徒ばかりであった。そのため、支援学校の生徒に投げ方をレクチャーしてもらいながら競技を進めていた。高等部（就労デザインコース）との交流は、普段の授業体育と同じ感覚で実施をしているため、生徒からは「楽しかった。」という声が一番多く聞かれ、「ゲームには負けてしまって悔しかったが、みんなで協力して応援もすることができたのがよかった。」「前回の交流では、話さなかった子と話をすることができて仲良くなれた。」などの感想が聞かれた。スポーツを通して、友情を深めることができたことが成果である。

3. 本校の生徒には両校の部員たちは、はじめは緊張した面持ちであったが、一緒に準備運動やキャッチボールなどのプレーをしていくうちに、声かけの数、笑顔が増えていった。本校のソフトボール部は元気な声を出すことを大切に日々部活動に励んでいる。

彼女たちの出す声や返事、道具の管理や扱い方をみて八幡支援学校ソフトボール部員は圧倒されていたが、その姿を「かっこいい！」と言ってくれ次第に感化されていった。また、彼らが感化していく変容に本校生徒も嬉しくなり、さらに元気が増していき、グラウンドに活気が溢れた。「毎週でもやりたい！」と「たくさん的人数で実践的な練習ができ嬉しかった。」など本校の生徒から聞くことができた。3年生が引退してからは少ない人数で日々練習をしているため、大勢でできる練習を存分に満喫していたあつという間の2時間であった。障がいの有無に関わらずソフトボールというスポーツをツールとし、互いに尊敬・尊重し合いながら合同練習を実施することができた。その中で本校生徒は、個々に応じたサポートや指導法を学び新たな気づきや練習方法の発見につなげる機会となった。次回は、2月18日（土）に実施予定である。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題等を記入してください

1. 本当は、ペタンクではなくボッチャを実施したいのだが、道具が高価で準備できない。また、今後も継続していきたい車いすバスケット用車いすも老朽化が進んでおり、修繕・買い換えをしたいが高価なためできない。
2. 特になし
3. 特になし